様式3

学校番号 **6**

# 令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　行橋　高等学校

| | | |
|---|---|---|
| **スクール・ミッション**<br>（本校の存在意義や社会的役割<br>目指すべき学校像） | 地域で学び、地域で育ち、地域に貢献する産業人材を育成する学校<br><br>地域との連携による多様な活動を通じた学びの中で、農業・商業・家庭の各分野における専門的な知識・技能や豊かな創造力、実践力を身に付け、地域産業の担い手として、明るく主体的にたくましく生きる人材を育成する。 | |
| **スクール・ポリシー**<br>（三つの方針） | グラデュエーション・ポリシー<br>（育成を目指す資質・能力に<br>関する方針） | ・的確な判断力と創意工夫する力、向上心をもって努力する態度の育成<br>・よき社会人としての資質向上に努め、主体的、実践的に取り組み、たくましく生きる力の育成<br>・自然を愛する豊かな人間性を育み、地域を愛し、周囲と協調して地域に貢献する力の育成 |
| | カリキュラム・ポリシー<br>（教育課程の編成及び実施に<br>関する方針） | ・確かな学力の育成を目指した教育活動の推進<br>「わかる授業」「魅力ある授業」の実践、基礎・基本の確実な定着、個に応じた指導、ICT活用による「主体的・対話的で深い学び」等、確かな学力を育む取組の充実<br>・産業人としての実践力育成を目指した体験的教育活動の推進<br>地域の産業界や行政機関と連携した「インターンシップ」「社会人招へい事業」、小中学校との「交流授業・出前授業」、学びの集大成となる「課題研究」、各種検定や資格取得等、主体的に学ぶ力を育む取組の充実<br>・全人的な成長を目指した生徒主体の教育活動の推進<br>学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動、部活動等、生徒主体の活動を通して自ら考える力、他者と協働する力、創造力、課題解決能力、リーダーシップなどを育む取組の充実 |
| | アドミッション・ポリシー<br>（入学者の受け入れに<br>関する方針） | ・各学科（農業・商業・家庭）に興味・関心が高く、将来、関連する産業への進路（進学・就職）を考えている人<br>・行橋（京築地区）が好きで、この地域で学び、将来、地域に貢献したいと考えている人<br>・実験・実習や体験的な教育活動が好きで、専門的な知識や技術を身に付けたいと考えている人<br>・自己実現に意欲があり、目標に向けて努力できる人 |

## 学校運営計画（4月）

| 学校運営方針<br>昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | 評価<br>（総合） |
|---|---|---|---|
| ・学期に1度の考査となり、より教科の単元ごとの小テストや実技評価等を行い、よりきめ細かな指導と評価を行っていく。<br>・課題研究において、学科の特色を生かし、地域とかかわりながら、社会課題の解決に取り組めた。今後は、発表会で外部評価を取り入れ、質疑応答等で学習成果の向上を図る。<br>・「お仕事の話」はキャリア意識向上につながり、PTA、卒業生、関係機関等を職業人（講師）としてお招きし、地域と連携しながら、更なるキャリア教育の充実を図る。 | 「主体的に考え、行動できる生徒」の育成 | 自己の目標を定め、意欲的に学び、実現に向けて努力できる生徒を育成する | A |
| | 「わかる授業・魅力ある授業」の実践 | 授業の工夫改善に努め、分かる授業、魅力ある授業による基礎・基本の徹底に努める | |
| | 「一人一人の生徒を大切にする生徒指導」の充実 | 人権意識を高め、お互いを尊重し、多様性を認め合える学校づくりを実践する | |
| | 「地域に貢献する産業人材」の育成 | インターンシップ、課題研究、職業人講話を通じて地域に貢献する人材を育てる | |
| | | | |
| | | | |

### 自己評価

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等 | 評価（3月） | | | 結果の考察と次年度の課題 | 学校関係者評価<br>項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「わかる授業・魅力ある授業」の実践<br>教育推進部 | 授業規律の遵守、わかる授業、魅力ある授業の展開 | 学科・教科学習における基礎・基本の向上を目指した授業づくりを推進する | 学校評価アンケート<br>授業アンケート | A | B | B | 生徒は学校生活基礎・基本の向上を実感できていたようである。サポート講座で、学び直しや授業の振り返りができるような取り組みをしていきたい | A | 通常の授業とは別に、基礎的な学力向上のための取組を行っていることは高く評価できる。 |
| | | サポート講座の活性化 | | B | | | | | |
| | | 授業で生徒が活躍できる機会を与えられる授業展開の提案をする | | B | | | | | |
| | ICTの利活用・充実、学校の魅力の情報発信 | Chromebookを活用した授業づくりを推進する | 学校評価アンケート | B | B | | Chromebookの活用及びICTを使用したユニバーサルデザインの授業づくりについては各教員に任せている現状があるため、研修を開くことで推進したい。<br>学校HPについてはInstagramの開設を行うなど、学校の魅力の発信を推進することができた。 | A | ICTを活用した授業だけでなく、SNSによる学校の魅力発信の取組に繋げている点が素晴らしいと感じた。また、地域に止まらず、全国に配信していただきたい。 |
| | | ICTを使用したユニバーサルデザインの授業づくりを推進する | | B | | | | | |
| | | 学校HPのトピックスの更新による学校の魅力の情報発信を推進する | | A | | | | | |
| | 図書館の利活用、研修の充実 | 図書委員会でイベントを開催したり、文化祭で成果を発表する機会を設け、図書館の利活用を活性化する | 学校評価アンケート<br>授業アンケート | B | B | | 図書委員会等が活発に活動し、校外のイベント等で表彰される生徒がいるなど、一定の成果を残せたが、一般の生徒が授業その他の場面で図書館を活用する機会が少なかったため、次年度以降、啓発に努めたい。また、ICTを用いた授業アンケートを行うことで効率的に生徒の声を吸い上げることができた。次年度は、このフィードバックの方策を考えたい。 | A | 書籍を読むといった機会が少なる中、図書館の利用を活性化させようという取組は必要である。効果は一朝一夕に出ないかもしれないが、今後も粘り強く取り組んでほしい。 |
| | | 新入生に向けたオリエンテーションの充実を図り、生徒が図書館に親しみやすい環境を作る | | B | | | | | |
| | | ICTを活用した授業アンケートを実施し、効率よく教員が授業の振り返りができるようにする | | B | | | | | |
| 「主体的に考え、行動できる生徒」の育成<br>生徒育成部 | 一人ひとりの生徒を大切にする生徒指導・人権教育 | 生徒の基本的生活習慣を向上させ、欠席・遅刻の防止に努め、各分掌・学年と連携して生徒指導にあたる | 学校生活アンケート | A | A | A | 各学年人権教育に尽力を注いでくれました。学年担当から学年会議、推進委員会をへて人権特設授業を各学年4回実施することができました。授業アンケートでも人権に対する意識が高まっていました。今後は様々な人権課題を教育の中に取り入れ生徒一人一人を大切にできる人権学習を実施ししたいとかんがえている。 | A | 卒業後、進学先や就職先で規則的な生活を送るため、しっかりとした指導を行われていることは大変意義深い。人権教育も若いうちからしっかり行い、正しい知識を身につけることが必要。 |
| | | 面談週間を活用し、生徒の対話を大切にし、一人ひとりの生徒を大切にする生徒指導・人権教育を行う | | A | | | | | |
| | | 生徒一人ひとりの人権を尊重し、すべての子どもがその可能性を伸ばす | | A | | | | | |
| | 環境美化意識を高め、人間力の向上を図る | 美化強化週間を設け、環境美化の意識をうえつける | 学校評価アンケート | A | A | | 美化担当の教員と美化委員を中心に定期的に校内美化点検ができ、校内美化に貢献できた。次年度も活動を続け、校内の安全点検も兼ねて活動する。生徒主体で活動を行わせたい。 | A | 行橋高校に伺った際、校内がいつもきれいに清掃されており、担当先生や美化委員の皆さんの日頃の活動の成果が表れていると思う。決して派手な取組ではないが、重要な事項であるため、今後も継続して取り組んでほしい。 |
| | | 環境美化委員会活動の活性化と充実を図る | | B | | | | | |
| | | 清掃用具の点検及び補充を行い、環境を整える | | A | | | | | |
| | 学校行事、部活動の活性化、各種役員の活性化でリーダーの育成を図る | 年間の行事を通して、目的意識の高揚を図り、生徒の成長を図る | 学校評価アンケート | A | B | | 生徒会を中心に年間行事を通して、生徒の成長を図ることができた。また、農業クラブでは各大会に参加し成果を上げている。家庭クラブにおいても地域への貢献や交流を行っている。今後の課題としては、部活動の加入に努めていきたい。 | A | 生徒を中心として学校行事等に取り組んでいることは高く評価。生徒がアルバイトに従事することを認めていることから、部活動の加入率を向上させることはなかなか難しいと思う。しかしながら、学業だけでなく部活動から学べることも多いため、継続して取り組んでほしい。 |
| | | 生徒会役員、農業クラブ役員、家庭クラブ役員等の役員研修を行い、学校のリーダー育成を行う | | B | | | | | |
| | | 部活動加入率の向上に向けた仮入部期間の設定【入部率30%以上】 | | B | | | | | |
| 「地域に貢献する産業人」の育成<br>進路広報部 | 進路保障100% | 進路希望調査をもとに個別面談を実施する | 学校評価アンケート | B | B | B | 個別面談は3年生をはじめ、よくできていた。アンケートで81．6%の生徒が進路課外は充実していたと答えていた。次年度も、教員の負担を考慮しつつ実施したい。PTAとの連携については、講師希望がでなかった。次年度は年度当初から計画的に要請をおこなっていきたい。 | B | 個別面談等、進路指導に対するサポート体制は充実しており、実績も出ている。外部との連携は、PTAだけでなく、門戸を広くしてもいいのではないか。 |
| | | 小論文指導、基礎教科課外、公務員課外を充実させ、進路保障100%を達成する | | A | | | | | |
| | | PTAと連携をして産業人を育てる進路行事を実施する | | C | | | | | |
| | 広報活動の充実 | 中学校、進路先への広報活動を行い、各学科のアピールを行う | 学校評価アンケート | B | B | | 中学校訪問を年2回実施をした。教員の負担を考えながら中学校へ、各学科のアピールをおこなっていきたい。PTAと連携をして行事を実施することができた。 | B | 国立大学への進学実績もあることから、さらなるPRが必要。中学校が行橋高校をどのように見ているかを把握するためにも、アンケート聴取はしっかり行ってほしい。 |
| | | 中学校に対してアンケートをとる | | C | | | | | |
| | | PTAと連携をして行事などを実施する | | A | | | | | |

様式3

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大地と心を潤わせよう<br>～農業で学ぶ自然の恵み～<br>農業技術科 | 農業技術科としての学習内容の充実と学科の特色ある取組 | 「野菜」・「草花」・「作物」を分けることで、専門性を深める学習を行う | 学校評価アンケート<br>実習日誌 | A | A | A | 類型で専門性の高い授業を行うことができた。また、地域との連携事業により、自ら考えて行動することができた。ICT活用については圃場での活用がまだうまくいかず、今後の課題であるため、西日本工業大学と連携をしながら改善していきたい。 | A | 校内での授業だけでなく、地域との連携事業を行うことにより、生徒も刺激を受けているのではないか。今後、西日本工業大学とも連携がより大きな効果として表れることを期待している。 |
| | | ICTを活用した学習展開を考え、取得したデータを授業で活用する | | B | | | | | |
| | | 近隣の幼稚園や小学校との交流をとおして、生徒の主体性を伸ばす | | A | | | | | |
| | キャリア教育を重視した学習内容の充実 | 社会人招聘授業を実施し自身のキャリアアップにつながる考えを持たせる | 学校評価アンケート<br>農企業体験アンケート | A | A | | 社会人招聘事業ではワンヘルスを学び、キャリアアップにつなげることができた。資格取得についても積極的に取り組むことができ、一定の成果が上がった。農企業体験では、猛暑の中で実習を行い、地域に貢献することができた。来年は猛暑をさけるため、1か月遅く行う予定である。 | A | 地域の農業者の圃場で農企業体験を行うことで、農業への理解も進むと思われる。本取組に関して普及指導センターも協力させていただくので、今後も継続して取り組んでほしい。 |
| | | 生徒自らが積極的に資格取得ができるように指導を行っていく | | A | | | | | |
| | | 農企業体験実習を通じて、地域農業を学び、地域に貢献する | | A | | | | | |
| 君の夢あずかります<br>～庭でしか味わえない感動がある～<br>環境緑地科 | 実験・実習、資格取得の充実 | 専門性を活かした大学等の進学及び就職についての進路指導を行う | 学校評価アンケート<br>検定・試験結果<br>志願書類 | B | B | B | 厚生労働省ものづくりマイスター制度を受講した生徒は、3年生10名、2年生36名。そのうち、高難度の技能検定2級合格者1名、3級合格者は17名であった。2級を受験し合格できたことは大きな成果であったが、2年生の合格率が例年に比べても低かった。この結果を受けて、現在の1年生への指導内容を見直した。 | A | 取得困難な資格の取得にチャレンジする姿勢は評価に値する。今後も、取組を継続してほしい。 |
| | | ものづくりマイスター制度を活用し、熟練講師による実技指導を生徒に受講させ、国家資格の取得を目指す | | B | | | | | |
| | | 学科の特色を活かした資格取得の充実 | | A | | | | | |
| | 学校で生産する農産物等の充実、販売、情報発信 | 生徒が主体的に地域との交流事業を運営することにより職業意識の向上およびキャリアアップを目指す | 学校評価アンケート<br>生徒授業成果物<br>実習日誌 | B | B | | 福岡県学校農業クラブ連盟競技会において、平板測量競技に参加した2年生4名が最優秀賞を受賞し、岩手県で開催された全国大会に出場、意見発表会に参加した。また、3年生1名が最優秀賞を受賞し、鹿児島県で開催された九州大会へ出場した。 | B | 具体的取組「学校で生産する農産物等の充実、販売、情報発信」に対して、結果の考察と次年度の課題の内容がマッチしていない。 |
| | | インターンシップを活用し、職業意識の向上を図る | | B | | | | | |
| | | 専門的な学習をとおして、課題研究及び農業クラブ活動、各種競技等に対して自ら学ぶ姿勢を養う | | A | | | | | |
| いまこそビジネスを学ぶチャンス<br>～社会を支える人材を目指して学ぶ～<br>総合ビジネス科 | 実験・実習、資格取得の充実 | 授業を通して知識・技術を身に付けさせる | 学校評価アンケート | A | A | A | アンケートにより9割の生徒が、商業の科目を学ぶことにより専門知識を身に付け、検定試験にも積極的の取り組んでいるのが伺える。 | A | 生徒が積極的に検定試験やフィールドワークに取り組んでいることから、学校側の取組が効果的であることがわかる。 |
| | | 上位級の資格を取得することにより進路選択へつなげていきたい | | B | | | | | |
| | | 販売実習を行うことができる機会をつくる | | A | | | | | |
| | 地域連携の取組の充実 | 『課題研究』の授業などを通して地域の方々と関わる機会を増やす | 学校評価アンケート | A | A | | 「課題研究」以外の授業において、大学と連携した授業を行うことができた。中学校体験入学でおいては、生徒中心に実施することができた。 | A | 多岐にわたる学科を擁している学校の特色を活かし、地域でのイベント等に積極的に参画している取組は高く評価できる。 |
| | | 地域で行われるイベントに積極的に参加をする | | B | | | | | |
| | | 生徒中心で発表などを行うことができるように指導する | | A | | | | | |
| 夢と理想と創造と<br>～キミの想いで全てが変わる～<br>生活デザイン科 | 実験・実習、資格取得の充実 | 作品製作や実習を多く取り入れた授業展開をし、確実な知識・技術を身に付けさせる | 学校評価アンケート | A | A | A | アンケートより95%の生徒が、多くの実習を通して確実な知識・技術が身に付き、生活の中で活かせると実感している。これらの力を、家庭科技術検定の合格率向上に繋げていくことが課題である。 | A | 生徒が積極的に校外活動や検定試験に取り組んでいることから、学校側の取組が効果的であることがわかる。 |
| | | 身に付けた知識や技術を検定取得へ繋げる | | B | | | | | |
| | | 身に付けた知識や技術を生活の中で活かせるよう指導する | | A | | | | | |
| | 地域連携の取組の充実 | 課題研究や中学生体験入学などを通して、地域の方々と関わる機会を充実させる | 学校評価アンケート | A | A | | 今年度新たに「ものづくり教室」を実施し、保育・被服・食物に関して学んだことを活かし、地域の方々にものづくりを体験していただく場を提供することができた。これを継続した取り組みにしていくことが課題である。 | A | 多岐にわたる学科を擁している学校の特色を活かし、地域でのイベント等に積極的に参画している取組は高く評価できる。 |
| | | 人との関わりを通してコミュニケーション能力を身に付ける | | A | | | | | |
| | | 生徒の活躍する場面を生徒自身で認識できる機会を設ける | | B | | | | | |
| 1学年 | 学びに向かうための基本的な態度の育成 | 授業規律の徹底（あいさつ、聴く態度、忘れ物） | 学校評価アンケート | A | A | A | 「傾聴」をキーワードとして聴く態度の大切さを訴え、授業態度も身についてきた。整理整頓ができない生徒がいることが課題である。 | A | 基本的な生活態度を身につけさせることは、本来、各家庭で行うべきものであるが、こうした分野まで学校側が指導していることに、改めて教育現場の大変さを痛感した。取組は、ぜひとも継続してほしい。 |
| | | 提出物などの期限の厳守 | | B | | | | | |
| | | 検定や資格取得を目指すことを奨励する | | A | | | | | |
| | 生徒が自ら意欲をもって取り組み、協力する態度の育成 | 生徒一人一人が主体的に行動できるような活躍の場を与えるようにする | 学校評価アンケート | A | A | | 委員会やクラスの係活動などは責任を持って取り組ませることができた。来年度は行事で活躍できる場を増やし、主体性を育てたい。 | A | 委員会やクラスの係活動等に限定しているが、入学間もない中、責任をもって活動できる生徒が出てきていることから、成果は十分に出ていると考えられる。 |
| | | 一人一人に役割を与えて責任を持たせる | | A | | | | | |
| | | グループで活動する場面を増やす | | B | | | | | |
| 2学年 | 各行事の中での役割を自覚し、行動できる生徒の育成 | 生徒各々の個性を発揮する場所を自ら見つけ、輝ける場面をつくれるような取り組みを行う | 学校評価アンケート | A | A | A | 自ら考えて主体的に学校生活をおくる生徒が多く、リーターの生徒中心に学年集会や修学旅行の進行が実施出来できた。風紀面に対しての課題も希望進路の実現を前面に出し、進路指導課と連携して取り組みたい。 | A | 学校行事に生徒自らが主体的に考えて運営できることは素晴らしい成果である。 |
| | | 行事や資格取得など何事にも積極的に取り組んでいけるように指導する | | A | | | | | |
| | | 思いやりを持ち、後輩のお手本となるような行動や言動となるように日常生活より意識させる | | A | | | | | |
| | 集団の中での自他の在り方や接し方を大切にする態度の育成 | 学年、科への帰属意識を強め、集団で一つの目標に向かって努力する意識を持たせる | 学校評価アンケート | A | A | | アンケートにより97％生徒が学校行事や資格取得に意欲的に取り組んだことがわかった。（そう思う64．6%・まあそう思う32．3%）次年度は最終学年としての自覚と他者への感謝の気持ちを持たせ、クラス・学年・学科と連携して取り組みたい。 | A | 学校行事等に意欲的に取り組んだとのことから、学校側が生徒に目的意識をしっかりと持たせることができていることがわかる。 |
| | | 日々の学校生活から自己や他人を思いやれるような在り方や接し方を意識させる | | B | | | | | |
| | | 集団内での自分の存在意義等を確実に知り、他者の価値観も受け入れるように日頃より指導する | | A | | | | | |
| 3学年 | 全員の進路実現 | 進路ガイダンスを通じて進路意識の向上と自己理解を深める | 学校評価アンケート | A | B | B | 進路ガイダンスなどを通じて進路意識の向上は図れたが、課外授業やサポート講座による指導については改善の余地がある。 | B | 課外事業やサポート講座の取組自体はすばらしいと思うので、生徒自身が効果を実感できる手法を検討してほしい。 |
| | | 各種課外授業やサポート講座による基礎学力の向上 | | B | | | | | |
| | | 面談・面接指導を通じてきめ細かな進路指導を行う | | B | | | | | |
| | 最終学年としての意識の向上とリーダーシップの育成 | 実行委員会・生徒会を中心にした生徒主体の体育祭・文化祭の企画・運営 | 学校評価アンケート | B | B | | 生徒の自主的な活動については一定の成果が得られたが、人権意識の向上や実際の行動に関しては指導内容を一層改善しなければならない。 | A | 人権意識に関しては、一朝一夕に醸成できると思えないが、継続して実施することは必要。さらに生徒に有効な指導方法を検討してほしい。 |
| | | 面接指導を通じた社会人としての礼儀や言葉遣いを学び、表現力を高める | | B | | | | | |
| | | 人権教育・ホームル一魔活動を通じて、人権意識の向上を図る | | B | | | | | |
| 事務室 | 校舎改築工事の円滑な推進、既存校舎の維持管理 | 工事を円滑に進められるように適宜、職員への工事連絡をする | | B | B | B | 改築工事については、本校の要望を伝えながら工事工程を円滑に進めることが出来た。解体予定校舎については、大規模な修繕が見込めないため、安全に使用できるよう点検を強化し既存の予算で対応する。 | A | 必要な予算が令達されず、現場は大変だと思うが、点検をしっかり行い、生徒や職員の安全第一で施設を活用していただきたい。 |
| | | 老朽化した既存校舎を適切に管理する | | B | | | | | |
| | 配分された予算の効果的、効率的な執行 | 限られた予算の中で、無駄な執行を検証しつつ、必要な場所に予算配分できる体制を目指す | | B | B | | 各分掌の課題が解決できるよう予算の組替えを柔軟に行い生徒の学習環境整備に取り組む。 | A | 少ない予算で学校運営されていると拝察。生徒第一で予算配分を考慮されている点は高く評価。 |
| | | 分権予算の組み替えを適宜行い、物資の迅速な調達に努める | | B | | | | | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・地域に誇れる専門高校を目指したい。そのために、生徒一人ひとりを大切にした生徒指導を基盤に職員一同協力して、学校づくりを行っていきたい。

・地域に根差したインターンシップや活動を行い、地域に信頼され、愛される生徒を育成していきたい。

・生徒たちの学びを地域に還元し、地域で活躍できる人材育成を行っていきたい。

・課外授業やサポート講座の取組を充実させ、生徒自身の学びの深化と、「やればできる」という意識を向上させるような取組を行い、生徒に自信をつけさせ、学びの楽しさを身に付けさせたい。

・「連携」をキーワードに、地域連携・学科連携・高大連携等、校内外で活躍できる人材を育成し、学校の活性化を図りたい。

| 学校関係者評価 | |
|---|---|
| 評価（総合） | 自己評価は<br>A：適切である<br>B：概ね適切である<br>C：やや適切でない<br>D：不適切である |
| A | |
| 評価項目以外のものに関する意見 | |
| 来年度は、高大連携を取り組むことになっていると聞いているが、大いに頑張っていただきたい。各科専門性を高め、県下に誇れる総合型専門高校に躍進していただきたい。 | |